1969~1970年度の編集方針について

刊行物委員長　森　口　繁　一

このたびはからずも刊行物委員長に再任されました．会誌は学会活動としてはもっとも重要なもので，現在のところ会員各位に対する最大のサービスですから，今迄同様しっかりやってゆきたいと思います．会員各位の御協力を切望する次第です．

本学会も発足以来既に10年以上経過し，会員数も千名をこえるようになりました．わが国もいよいよ中進国から先進国の域へ進もうとしており，従来のような模倣の時代から独創の時代に入ろうとしている今日，新しいアイデアを産み出し，企業経営の一助となるオペレーションズ・リサーチ（OR）はますますその真価が認められるようになるに違いありません．そしてこのことについて学会が大きな貢献をしてきたことも議論の余地がないところです．しかし，10年も過ぎると自ら学会の家風ともいうべきものが良かれ悪しかれできてくることもまた事実です．会員の中にはORのオーソリティも多いのですが，一方勉強したくても勉強する暇のない経営者もおり，また，学会に入ってORを学びたいという方々もおります．歴代の刊行物委員長はじめ関係各位の御努力によって，学会誌は一面からいうと格調高く海外からも高く評価されていますが，反面むつかしすぎる，読んでもわからないという声もしばしば耳にします．もちろん学会誌というものはいわゆる世間一般の商業誌とは異り，どれもそう読みやすいものではありませんが，それでもこういう声も真実である以上学会誌をもっと読みやすいものにすることも大切な学会活動の一環を荷う刊行物委員会の大きな責任であると考え，昨年以来委員会において真剣に議論してきました．そして再任されたのを機会につぎのような手をうつことにしました．

1. 今までの方々に加えて新進気鋭のORワーカーに刊行物委員となっていただきました．
2. 「OR金曜サロン」を設けました．

ORが役に立つということは段々認められてきましたが，ORに対するはっきりした定義はまだできていないといってもよいでしょう．あるいは，マハラノビス教授のいうように，“これがORだ”といえるようになったらそれはもうORでなくなるかも知れません．それはともかく，学会活動を見ていると一部の方々が人なみ以上に労力奉仕をされていますが，また学会活動が一部の方々にかたよりすぎているとも考えられます．ORの発生がいろいろ専門を異にする人々のフリー・トーキングによるグループ活動であったことを考えて，つぎのような方針でOR金曜サロンを開きます．

(1) 原則として毎月第1金曜日の午後5時半から学会事務所で数時間開きます．

(2) メンバーは常任の4～5名と臨時の10名位の計15名内外とします．常任の方々については当分の間刊行物委員会のメンバーの中から選びますが，臨時のメンバーは学会の会員名簿からランダムにサンプリングして選びます．会員は法人・個人として学生会員は除きます．結局東京附近在住の方が主にご出席になるでしょうが，地方の方々にも招待状はお送りします．ただし学会の財政状態が楽でないので夕食は出しますが交通費は差上げられません．

(3) テーマについてはいろいろあるでしょうが，さしあたり

a　ORとは何か？

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

b　ＯＲ手法の効用と限界

c　現場にある問題に対するＯＲ手法

とします．この結果，会員各位に役に立つと思われる話がまとまりましたら記事として学会誌“経営科学”に発表します．

3.　学会誌の審査基準と投稿の注意について．

学会誌ですから投稿される論文についてはレフェリーが審査します．学会々員なら当然の常識と思いますがレフェリーが誰かという御問い合せはいままでも一切お断りしていますし今後もお断りします．別に明文化された審査基準があるというわけではありませんが返却される場合はレフェリーは１人ではないということになっています．

ＯＲは応用科学ですから独創性という点ではいろいろ問題があると思いますが，もちろん全部だとはいえませんけど，いままで発表された論文をみますと，問題を定式化するところは簡単にして定式化されてからあとのとき方に重点がおかれている論文が多いようです．定式化するところまでが良く書けていれば真似をしたいという人も出てきてＯＲ活動がますます盛んになり，ひいては学会も盛んになってくるでしょう．だから問題を定式化するところまでをなるべく精しく書いて欲しいと思います．つぎにＯＲはやって良かったとか新しい考え方が生れたということが何より大切ですから，たとえ既によく知られている手法を使っても良い結果が生れたら――このことは何もしいて金額に採算する必要は毛頭ありません――どしどし投稿して下さい．中にはこんなチャチなものではと考えて投稿されない会員もいると聞いておりますが，もし本当にチャチならレフェリーによって返却されるはずですからまず投稿してみて下さい．

おわりに学会の役員は，少くとも刊行物委員会のメンバーは誰１人，自分がＯＲのオーソリティであるとか役員だから偉いとか考えていないでしょう．会員各位から委任を受けて学会をおあずかりしていると考えている人ばかりだと思います．そして日夜学会を盛んにすることについて考えていることでしょう．

だから，大学の偉い先生だとか有名人と思って遠慮したりなさらずに刊行物委員会はじめ各機関にどしどし学会をよくするための――学会誌ばかりでなく――注文をつけて下さい．これは刊行物委員長としてだけでなく副会長としてもお願いします．　（おわり）

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．